

第28回（平成25年度）  
商業経済検定試験問題  
〔経済活動と法〕

解答上の注意

1. この問題のページは2から16までです。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 問題用紙の表紙に受験番号を記入しなさい。
4. 文字または数字で記入するもの以外はすべて記号で答えなさい。
5. 選択問題Ⅰ〔企業活動に関する法〕・選択問題Ⅱ〔社会生活に関する法〕は2分野のうち1分野を解答すること。2分野を解答した場合は、選択問題すべてを無効とします。
6. 計算用具や六法全書などの持ち込みはできません。
7. 制限時間は60分です。

※ 試験終了後、問題用紙も回収します。

① 次の文章を読み、問いに答えなさい。

自転車は、通勤や通学、買い物など、さまざまな用途に利用され、私たちの生活に欠かせない乗り物のひとつになっている。しかし、東京都ではピストバイクによる自転車事故が多発している。ピストバイクとは、競輪のトラック競技に使用する競技用自転車と同じ構造で、基本的にはブレーキをはじめとする保安部品が備え付けられていない。2012年における東京都のピストバイクを含んだ自転車事故は18,220件であった。

このため、東京都では保安部品がない自転車の一般販売を禁止する(a)「東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を2013年3月に制定した。もともと道路交通法では、保安部品のない自転車が公道で走ることを禁止しており、ブレーキのないピストバイクも取り締まりの対象であった。ところが、販売業者を規制する法律や条例はなく、事実上は一般の誰もが購入できる状態であった。そのため、東京都では(b)この条例を2013年7月から効力を発生させることで、販売業者を規制し取り締まりをさらに強化したのである。

この条例は、憲法や法律、命令などのように条文の形に書きあらわされている法に区分される。これに対して、(c)条文の形に書きあらわされていない法がある。そのなかには、同じような事件について、同様の判決がたびたびくだされることにより、法と同じような拘束力をもつ判例法と、社会生活上の慣習が、法として意識されるようになった慣習法がある。これらの判例法と慣習法は、現代社会の秩序を維持するために、条文で書きあらわした法だけでは不十分なところを補う役割をもっている。

問1. 下線部(a)はどのような法か、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 地方公共団体の長が制定した法
- イ. 地方公共団体の議会が制定した法
- ウ. 地方公共団体の議長が制定した法

問2. 下線部(b)を何というか、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 発令
- イ. 公布
- ウ. 施行

問3. 下線部(c)を何というか、漢字3文字で正しい用語を記入しなさい。

② 次の文章を読み、問いに答えなさい。

Aは休日を利用して趣味の山登りをするために車で近くの山に向かった。この山は地元の人々が、以前から里山を保全するために登山道の整備をし、植林をする努力が実り、緑の豊かな場所となっていた。登山道を車で少し進むと、古めかしい立て看板が設置されていた。その立て看板には、「ここから先は車馬を乗り入れないこと」という文言が書いてあった。道幅が狭くなっており、タイヤも滑りそうな道であった。こんな時代に、馬が通るのだろうかと思いながら、(a)Aは、この文言の通り「車両と馬は乗り入れてはいけない」と解釈し、近くの駐車場に車をとめて、そこから歩いていくことにした。

学生時代に法律を学習していたAは、歩きながら、車は通れないけどベビーカーは通れるのではないだろうか、馬は通れないけどペットの犬ならば通れるのではないだろうかなど、法の解釈には、縮小解釈や反対解釈などがあることを思い出した。もし(b)拡張解釈をした場合にはどうなるのか。そして、Aは同じ立て看板の標記なのに、人の考え方によってさまざまな解釈があると感じた。

問1. 下線部(a)のような法の解釈を何というか、漢字2文字を補って正しい用語を完成させなさい。

問2. 本文の主旨から、下線部(b)の具体例として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. ロバは馬のなかに含まれるので通行できないとする解釈
- イ. 牛は立て看板に規定されていないから通行できるとする解釈
- ウ. 自転車は車のなかに含まれないので通行できるとする解釈

③ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

Aの家には、広い土地があったが、父親の事業を存続させるために、土地の一部を売って資金を集めなければならなかった。Aは不動産業者に依頼し、自分の所有している家の周りの土地を分割して売却した。ところが、売却の手続きを急いだために、(a)Aの土地は複数の他人の土地に囲まれ、公道に通じていない土地となってしまった。そのため、Aが自分の土地から公道へ出るときは、Bとの交渉でBの土地を通行させてもらっている。

その後、近所の人たちとは良好な関係が続いていた。ある日、家の南側にあるC所有の竹木の枝と根がAの土地との境界線をこえてきていることに気がついた。さらに数週間後、何気なく見ると、竹木が家の壁に当たるまでに伸びていた。そこでCの家を訪れ、事情を説明した。(b)Aは、伸びた枝や根を自分で切り取りたいが、法律の規定ではどのようにできるのか調べることにした。

問1. 下線部(a)のような土地を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 承役地しょうえきち
- イ. 囲繞地いりょうち
- ウ. 袋地いじょうち

問2. 本文の主旨から、下線部(b)の結論として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 竹木の根はAが切り取ることができ、枝はCに切り取らせることができる。
- イ. 竹木の枝はAが切り取ることができ、根はCに切り取らせることができる。
- ウ. 竹木の枝と根は、両方ともAが切り取ることができる。

④ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

Aには、同じフランス料理店の料理人として知り合って結婚した妻がいる。Aと妻は数人の従業員を雇い、フランス料理店を経営していた。顧客も多かったが生まれてくる子どもや妻のために、店舗を拡大しなかったため、国内の日本料理やフランス料理の店で修行をしようと考えた。妻に相談して、納得できる料理を作れるようになるまでは家に戻らず、国内の料理店で修行することにした。そして、「もし、何年間も帰って来なければ、(a)失踪宣告の制度を利用していいよ」と冗談まじりに話していた。妻はAを信じ、自分の経営する店で夫の分も仕事をしていた。

ところが、1年がたったある日、Aから、もう少し修行をしたいとの手紙を受け取った。妻はAを信じ、自分のフランス料理店を存続させるために一心不乱に働き続けた。しかし、10年間に過ぎ、妻は心のなかでAはもう帰って来ないのかもしれないと考えていた。

時は流れ、子どもは中学生になった。妻は料理店を従業員に任せて、しばらくゆっくり暮らそうとした。また、妻はAの財産を相続するため、失踪宣告の制度を利用しようと考えた。

そして、妻は(b)失踪宣告を請求するために、裁判所に行った。ところが、子どもが高校生になった年に突然Aが妻の前にあらわれた。妻に詫びながら、自分に厳しくしたかったので連絡をしなかったとのことである。その後Aは、日本料理とフランス料理も作れる、わが国でも有名な料理人となり、家族で末永く幸せに暮らした。

問1. 下線部(a)の説明として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. ある人の生死不明の状態が、普通失踪は10年間、特別失踪は1年間続いたとき、利害関係人から裁判所に請求することで、その人を死亡したものとみなして扱うことができる制度。
- イ. ある人の生死不明の状態が、普通失踪は10年間、特別失踪は7年間続いたとき、利害関係人から裁判所に請求することで、その人を死亡したものとみなして扱うことができる制度。
- ウ. ある人の生死不明の状態が、普通失踪は7年間、特別失踪は1年間続いたとき、利害関係人から裁判所に請求することで、その人を死亡したものとみなして扱うことができる制度。

問2. 下線部(b)の裁判所を何というか、漢字で正しい用語を記入しなさい。

⑤ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

平成24年10月1日における総務省の人口推計によるとわが国の総人口は、約1億2,751万人となった。そのなかでも65歳以上が、初めて3,000万人を超えた。高齢化にともない(a)自分の行ったことの性質や結果を正しく理解、判断できる能力が不十分な認知症の高齢者も増加している。

そこで、判断力の不十分な人が不利な取引をしないようにするために、民法は、未成年者や被補助人、(b)被保佐人、成年被後見人について、画一的に行為能力がないものとして保護する制度をおいている。

[事例]

Aは保佐開始の審判を受け、被保佐人となり、保佐人の保護のもとにおかれることとなった。ある時、Aが一人で家にいると塗装会社の営業員が訪問し、外壁の塗装について説明してきた。Aは、はっきりした内容は理解できなかったが、営業員の言われる通りに契約書へ押印してしまった。ただ、営業員はAの言動から認知症の人かもしれないと疑った。(c)Aに保佐人がいるならば、Aに対して一定期間を定め、期間内にAの保佐人にその取引を認めるか確答するよう催告しようと考えた。

営業員は数日後、Aの家に訪問すると保佐人が応対してきたことから、「Aさんと塗装の契約を締結したので、塗装をする日を決めていただけませんか」と申し出た。保佐人は、Aが制限行為能力者であることと、外壁の塗装をするか検討する旨を伝えた。

営業員は保佐人に対して、「一定期間を定め、期間内に契約を認めるかどうかAと相談して確答していただけませんか」と申し出て、保佐人の承諾をもらった。しかし、(d)期間が過ぎても保佐人から返答はなかった。

問1. 下線部(a)を何というか、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 意思能力    イ. 権利能力    ウ. 訴訟能力

問2. 下線部(b)の内容として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 軽度の精神上的の障がいにより、物事の道筋を理解する能力が不十分な人  
イ. 精神上的の障がいにより、物事の道筋を理解する能力が著しく不十分な人  
ウ. 精神上的の障がいにより、物事の道筋を理解する能力を欠く常況にある人

問3. 下線部(c)に記されている期間は、民法上どのように規定されているか、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 8日以上    イ. 14日以上    ウ. 1か月以上

問4. 本文の主旨から、下線部(d)の行為と民法の規定から考えて、どのような結論が得られるか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 契約を取り消したことになる。  
イ. 契約を追認したことになる。  
ウ. 契約を保留したことになる。

⑥ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

自然人や法人は、権利の主体として財産を支配しており、この支配を通して経済生活を行っている。これらの支配している財産を権利の客体といい、その中心となるのが物である。

物とは、経済生活に役立ち、しかも人間が自由に使用し、取引することができるものをいう。有体物は、民法ではすべて物である。ただし、(a)刑法上、有体物ではないが、物として扱われるものもある。また、物と物とのあいだには、特別な関係がある場合があり、主物と従物や(b)元物と果実がその例である。果実は天然果実と(c)法定果実に分けることができる。

[事例]

AはBの所有する土地付き一戸建ての不動産を購入しようとしていた。この物件の庭には、高価な庭石やBが購入した散水ホースがあった。Aは、この物件を買えば、どちらも自分のものになると思い売買契約を締結した。

しかし、引き渡しの日に庭を見ると庭石は取り外され、散水ホースもなかった。AはBに「私が物件を見学した時は、庭石も散水ホースもあった。どちらも私のものになるはずですよ」と主張した。一方、Bは「建物と土地を売りましたが、庭石も散水ホースも売った覚えはありません」と主張した。

このように、お互いの主張が食い違うが、(d)庭石や散水ホースは、主物と従物の関係から、誰の所有物となるのだろうか。なお、この取引において特約はなかった。AもBも自分のものであると主張をするが、民法の規定はこのようなトラブルを解決するためにある。

問1. 下線部(a)は何か、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 光    イ. 音響    ウ. 電気

問2. 下線部(b)と下線部(c)の関係を満たす組み合わせとして、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. (b)田畑    (c)米・野菜  
イ. (b)貸家    (c)家賃  
ウ. (b)腕時計    (c)バンド

問3. 本文の主旨から、下線部(d)について、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 庭石は不動産の従物となるので、売り渡したことになり、Aの所有物になるが、散水ホースは不動産の従物とはならないので、Bの所有物となる。  
イ. 散水ホースは不動産の従物となるので、売り渡したことになり、Aの所有物になるが、庭石は不動産の従物とはならないので、Bの所有物となる。  
ウ. 庭石も散水ホースも不動産の従物となるので、一緒に売り渡したことになり、どちらもAの所有物となる。

7 次の文章を読み、問いに答えなさい。

A社は百貨店や大型スーパーにエスカレーターを設置している。このエスカレーターの階段部分には細い溝が設けられている。また、上りのエスカレーターに乗ると、かかとに近い後端部のライン部分に凸状の加工がある。この加工技術は特許権の登録がされており、靴底が濡れている場合でも滑りにくくしてある。もし、階段部分が床のように平らだったら、雨の日は滑りやすいために転げ落ちたりして、けが人が続出するだろう。そのほかに、ごみや異物の挟み込みを防ぐ役割もある。

この考案は、A社が特許庁に登録し、(a)特許出願の日から、一定の期間、独占して製造や販売をすることができる産業財産権として保護されている。産業財産権に属している権利には特許権のほかに(b)商標権や実用新案権、意匠権などがあり、いずれの権利も産業の発展に寄与するために存在しているのである。

問1. 下線部(a)の期間は何年か、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 20年    イ. 30年    ウ. 50年

問2. 下線部(b)の説明として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 新しい工夫の鉛筆とか缶切りというように、品物の形や構造についての実用的な産業上の新しい考案を独占して使用することができる権利。  
イ. 品物の形や模様、色やこれらを結合したものなどについて視覚を通じて美感をおこさせる産業上の考案を独占して使用することができる権利。  
ウ. 商品につける特別のマークや立体看板、特定の業者が提供している役務であることがわかるマークを独占して使用することができる権利。

8 次の文章を読み、問いに答えなさい。

会社員Aは、馴染みの食堂に入った。靴を脱ぎ、座敷席に座って食事をした。食後、代金を支払おうとして、脱いだ場所で靴を探したが自分の靴がなかった。そこにはAの靴と似ている靴があったが、違う靴であった。Aは店員に事情を話して履物を借りて会社に戻った。

数時間後に、食堂の店員から間違ってAの靴を履いていった顧客から、お詫びをしたいとの連絡が入った。食堂へ行くと間違って靴を履いてしまったBがいた。Bは恐縮しながら「申し訳ありませんでした。明日中に新しい靴を購入して弁償いたします。その際、(a)債権の担保として私の腕時計を引き渡します。もし弁済期がきても弁済がない場合には、この時計を競売していただき、その代金から弁済を受けてください」と申し入れた。Aは履いていった人を見つけたら(b)法に訴える手続きによらないで、自分で侵害された権利を戻すことを考えていた。しかし、この靴なら私も間違ってしまうだろうと考えながら、Aは店員に靴の管理強化を訴えるとともに、Bの腕時計を受け取らず自分の靴を返してもらって和解することにした。

問1. 下線部(a)のような担保物権を何というか、漢字で正しい用語を記入しなさい。

問2. 下線部(b)を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 強制認知    イ. 自力救済    ウ. 原状回復

㊦ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

私たちの日常生活においては、物の売買や貸借など、いろいろな場で広く契約が結ばれている。例えば、消費者が商店で物を購入する場合、法律的に言えば、消費者は商店と売買契約を結ぶことになるが、どのような内容の売買契約を結ぶかは、当事者の自由意思に任されている。

このように、(a)私たちは、契約の内容や条件・方式などを自分の意思で自由に取り決めることができるのが原則であり、近代社会における法の基本原則の一つとなっている。ただし、この原則に対する一般的な制限として、契約が強行法規に違反する場合や、(b)公の秩序または善良な風俗に反する場合には、契約は無効とされる。

しかし、今日では、さきに述べた例外的な場合だけでなく、(c)契約自由の原則は、物の売買や貸借などの契約の場で、さまざまな制限を受けるようになっている。それは、この原則が、たしかに個人の自由な創意をうながし、社会発展の原動力になったが、その一方で、社会に経済上の強者と弱者を生み、ときには契約が強者による弱者支配の手段ともなったことによるものである。

そのため、(d)経済上の弱者を保護するため、例えば、基本法である民法を改正するのではなく、別に法律を作って必要な干渉を行うことで、それらの法律が一般法としての民法に優先して適用されるようにしたのである。

私たちを取り巻くほとんどの法律は、「私権を侵さない。契約の自由を侵さない」という大前提で作られている。その一方で、契約のもたらす不利益を被らないよう法律の整備が必要である。

問 1. 下線部(a)のような原則が生まれた理由として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 契約を結ぶ当事者は、自由競争を通じて最も合理的な取引を行い、ひいては社会全体の利益や進歩にもつながると考えられたため。
- イ. 契約を結ぶ当事者は、自由競争のなかで経済力をつけ、ひいては社会に経済上の強者と弱者を生むことにもつながると考えられたため。
- ウ. 契約を結ぶ当事者は、自由競争を通じて利害関係を重視し、ひいては企業が独占的に市場を支配できることにもつながると考えられたため。

問 2. 下線部(b)の具体例として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 相手の意思表示が真意でないことを知っていた場合、その履行を請求することはできない。
- イ. 代理権の範囲外で売買契約を結んだ場合、委任者に代金を請求することはできない。
- ウ. 賭博で得たかけ金を相手が支払わない場合、裁判所に訴えて請求することはできない。

問 3. 下線部(c)において、契約自由の原則を規制している法律の例として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 民事訴訟法や刑事訴訟法
- イ. 消費者保護法や借地借家法
- ウ. 所得税法や法人税法

問 4. 下線部(d)のような主義を何というか、漢字 5 文字を補って正しい用語を完成させなさい。



10 次の文章を読み、問いに答えなさい。

東京都内に住む会社員のAは、実家のある長野市の郊外に300坪ほどの農地を所有している。ある日、Aの自宅に、長野市内の不動産業者のBが訪れ、「あなたが所有する農地は、市の都市計画により市街化区域が見直され、将来、宅地として利用することができなくなります。今なら当社がまとめて全部購入いたします」と、Aをだまして土地の売却を勧めた。(a)AはBの言葉を信じ、自己所有の土地を路線価より大幅に下回る価格で売却することにして、Bと売買契約を結んだ。

しかし最近になって、AはBにだまされたことを知り、Bに抗議したが、すでに(b)その土地は事情を知らないCに売却され、C名義で登記簿への登記がされていた。定年退職した後、その土地に移り住みたいと考えていたAは、(c)自分の土地の返還を請求できるかどうか、弁護士に相談することにした。

問1. 本文の主旨から、下線部(a)のような意思表示を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 錯誤による意思表示      イ. 詐欺による意思表示      ウ. 強迫による意思表示

問2. 下線部(b)のような不動産の登記を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 保存登記      イ. 仮登記      ウ. 移転登記

問3. 本文の主旨から、下線部(c)の結論として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. Bに対する意思表示は、表意者Aの保護を優先すべきであると考え、善意の第三者Cに対しても契約の取り消しを主張でき、土地の返還を請求することができる。
- イ. Bに対する意思表示は、表意者Aの保護を優先すべきであるが、善意の第三者Cに対しては契約の取り消しを主張できず、土地の返還を請求することができない。
- ウ. Bに対する意思表示と、表意者Aの真意が一致していないことに、表意者自身が気づかなかつたので、契約を取り消して土地の返還を請求することができる。

11 次の文章を読み、問いに答えなさい。

2012年のノーベル医学・生理学賞に輝いた京都大学の山中伸弥教授は、再生医療の実現に道を開くiPS細胞(人工多能性幹細胞)を開発し、「万能細胞」の研究に革命的な進歩をもたらした。

そもそもノーベル賞とは、ダイナマイトの発明で有名なアルフレッド・ノーベルが創設したことで世界的に知られているが、この賞は生前、(a)彼が残した遺言にしたがって生まれたものである。

次の文言は、彼の遺言書のなかで、ノーベル賞に関する事項を抜粋したものである。

全財産は次の通り処理すること

(b)遺言執行者は、基金を安全な有価証券に投資し、毎年その前年度に人類に最も貢献をした者に、その利子を賞金の形で与える。

この賞は、候補者の国籍を問わず、最も賞すべき者に授与するのが自分の希望である。

今回の受賞を機に、今後はiPS細胞によってさまざまな細胞を人工的に作り出し、病気やけがで損傷した臓器に移植して治療する再生医療の実現が期待されている。

問1. 本文の主旨から、下線部(a)を法律行為としてみた場合、効力発生の実事はどのように分類されるか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 確定期限    イ. 不確定期限    ウ. 有効期限

問2. 下線部(b)は民法上、贈与契約として考えられるが、契約の性質から分類した場合、どのような組み合わせになるか、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 双務契約・有償契約・諾成契約  
イ. 片務契約・無償契約・要物契約  
ウ. 片務契約・無償契約・諾成契約

12 次の文章を読み、問いに答えなさい。

ある日、会社に勤めるAに一通の封書が届いた。開封すると、1年半前に出張で一週間ほど北海道へ行ったときに立ち寄った飲食店からであり、その時の飲食代金5,000円の請求書であった。

Aは、その飲食店で何度か食事をして店長と顔見知りになり、名刺を置いてきている。当時の記憶はあいまいだが、確かすべて現金で支払い領収証ももらったはずだが、現在は保存していない。

困ったAは、上司に相談したところ、「(a)権利のうえに眠るものは保護するに値せずという諺もあるように、ある一定期間、権利を行使しないことによって、法律上の権利を主張できないとする制度がある」と教えてもらった。

(b)早速Aは、飲食店に連絡し、事情を説明したうえで自分の権利を主張することにした。

問1. 下線部(a)のような時効を何というか、漢字を補って正しい用語を完成させなさい。

問2. 本文の主旨から、下線部(b)の結論として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 飲食代金の時効は1年であり、すでに時効が成立しているので、代金を支払う必要はない。  
イ. 飲食代金の時効は1年であるが、時効の中断をしているので、代金を支払う必要がある。  
ウ. 飲食代金の時効は2年であり、まだ時効が成立していないので、代金を支払う必要がある。

13 次の文章を読み、問いに答えなさい。

民法上の金銭の貸借は、一般的に利息の支払いを約束して契約する場合が多い。その場合、利息は貸し主と借り主との間で決めた利率によって支払われるのが普通である。また、利率を決めなかった場合には、(a)民法上と商法上でそれぞれの法定利率が適用される。

利率の最高限度

元 本	利 率
10万円未満	年 2 割
10万円以上100万円未満	年 1 割 8 分
100万円以上	年 1 割 5 分

なお、利率を当事者の自由にしておくと、貸し主が借り主に対し、高い利息を取るおそれがあるので、(b)上表のように利率の最高限度を定めている法律によって規制している。

ところで、貸し主が借り主へ貸し付ける金銭のなかから、利息の前払いとしてあらかじめ一定額を控除することを利息の天引きという。これについても、利息の支払い額が上表の利率で計算した最高限度額を超える場合には、その超過部分は元本の支払いにあてたとみなされる。

[事例]

大学1年生のAは、調査研究のためにパソコンが必要となり、知人Bから、1年後に返済する約束で12万円を借りることにした。その際、利息の前払いとして2万円を差し引かれ、10万円を受け取った。(c)Aは返済期に12万円を支払わなければならないだろうかと法律を調べることにした。

問 1. 下線部(a)の年利率として、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 民法上年 4 分，商法上年 5 分
- イ. 民法上年 5 分，商法上年 6 分
- ウ. 民法上年 6 分，商法上年 7 分

問 2. 下線部(b)を何というか、漢字で正しい法律名を記入しなさい。

問 3. 本文の主旨から、下線部(c)の結論として、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. Aが支払う利息の最高限度額は、Aが知人Bと契約した12万円を元本として計算するので、2万4千円となる。したがって、Aが返済期に支払う金額は12万4千円である。
- イ. Aが支払う利息の最高限度額は、Aが知人Bと契約した10万円を元本として計算するので、2万円となる。したがって、Aが返済期に支払う金額は12万円である。
- ウ. Aが支払う利息の最高限度額は、Aが知人Bから受け取った10万円を元本として計算するので、1万8千円となる。したがって、Aが返済期に支払う金額は11万8千円である。

問 4. 本文の主旨から、AとBの間で結ばれた契約の種類は何か、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 消費貸借
- イ. 賃貸借
- ウ. 使用貸借

14 次の文章を読み、問いに答えなさい。

ある日、Aの住んでいる家屋の庭先に、隣接するBの家屋の屋根瓦が一部落ちてきた。Bの家屋はかなり古く、現在、空き家となっていて誰も住んでいない状況にある。このまま屋根を修理しなければ、雨や強風によって屋根瓦がさらに崩れ落ち、Aの家屋の壁や窓に当たって建物に被害が発生する危険がある。

(a)早速Aは、Bと連絡をとり、Bが所有する家屋の屋根を修理するよう請求した。するとBから、「最近、家を新築して今は資金に余裕がないのでしばらく待ってほしい」との返事がきた。

その後、3か月経ってもBから何の連絡もなく、屋根もそのままである。台風の季節が近づいてきて心配になったAは、弁護士と相談したうえで、(b)裁判所に訴えて代替執行の措置をとってもらうことにした。その結果、Aは所有権が侵害されるおそれを取り除くことができた。

問1. 本文の主旨から、下線部(a)のような行為は、どのような権利に基づくものか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 返還請求権      イ. 妨害排除請求権      ウ. 妨害予防請求権

問2. 下線部(b)の説明として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 債務の内容が、債務者でなくてもできる行為の場合に、裁判所によって、債務者に費用を出させて、その行為を第三者に行わせる方法をとってもらうこと。  
イ. 債務者に、「債務を履行しないのなら損害賠償しなさい」と裁判所が命じ、心理的な圧迫を加えることによって、間接的に履行を強制する方法をとってもらうこと。  
ウ. 債務者の意思にかかわらず、強制的に財産を差し押さえるといった、裁判所の手によって、債権の内容を直接実行する方法をとってもらうこと。

15 次の文章を読み、問いに答えなさい。

沖縄県に住む高校3年生のAは、関東地方の大学進学を目指し、受験勉強に力を入れてきた。いよいよ出願の時期がきたため、親や担任の先生とも相談し、受験する大学を決め、出願書類の準備をした。出願期限の2日前、すべての書類が整い、進路指導の先生に最終確認をもらった。

ところが、出願書類のうち願書の不備が指摘され、書き直すことになった。出願期限が明後日なので本日中に郵送しないと間に合わず、(a)「もし入学試験に合格したら、夏休みに短期留学に行かせてもらう」という父親との約束が叶わなくなると困ったAは、進路指導の先生に相談した。

すると、先生から(b)出願の要項のなかに、郵送する場合は出願期限の当日消印有効と記載されていることや、書類は書留郵便で郵送するようアドバイスを受けた。Aは安心して書類を家に持ち帰り、今度こそ不備がないよう書き直し、翌日、郵便局に行って無事に郵送することができた。

問1. 下線部(a)のような条件を何というか、漢字2文字を補って正しい用語を完成させなさい。

問2. 下線部(b)のような意思表示の効力発生時期の考え方を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 到達主義      イ. 発信主義      ウ. 物権法定主義

16 次の文章を読み、問いに答えなさい。

地元で和菓子店を経営するAは、販路拡大にともない、商品を配達する自動車が必要になったので、中古車販売店に行き、中古の軽自動車を50万円で購入する売買契約を結んだ。契約によると、軽自動車は契約から1週間後に納車され、代金のうち5万円は頭金として契約時に支払い、(a)残額は10回の分割払いとし、その代金は信販会社から借り入れ、割賦代金は毎月末に支払うという内容であり、Aはその場で5万円を支払った。

ところが、(b)納車予定日の前日に販売店から電話が入り、「納車が明日中にできず、3日後になる」と言われた。販売店によると、従業員がけがをして入院してしまったため、納車のための点検や登録に時間がかかるという。Aは配達に影響が出ないように、販売店から代車を借りて急場をしのぐことにした。

3日後、ようやくAの店に軽自動車が納車された。ところが翌日、走行中に雨が降ってきたので、ワイパーを動かしたところ、(c)ワイパー本体に不具合があり、動きづらいという欠陥があることがわかった。

その後、Aが販売店に連絡したところ、販売店側が点検不備によるミスを認め、謝罪をしたうえで、後日、新しい部品と交換してくれた。

問1. 下線部(a)のような債権担保の手段の説明として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 商品売買の際に、Aが代金の全額を支払うまで、自動車の所有権を信販会社側に留保することによって、代金債権を担保する。
- イ. 商品売買の際に、Aが代金の全額を支払うまで、中古車販売店が信販会社に債務の保証をすることによって、代金債権を担保する。
- ウ. 商品売買の際に、Aが支払う代金の額に応じて、自動車の所有権を分割してAに移転することによって、代金債権を担保する。

問2. 下線部(b)のような債務不履行を何というか、次のなかから最も適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 不完全履行
- イ. 履行不能
- ウ. 履行遅滞

問3. 本文の主旨から、下線部(c)のような販売店側の責任を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 危険負担における売り主の担保責任
- イ. 物に瑕疵がある場合における売り主の担保責任
- ウ. 権利に瑕疵がある場合における売り主の担保責任

17 次の文章を読み、問いに答えなさい。

社会人のAは、自宅を改築して喫茶店を開業したいと考えていた。しかし、資金が足りないため、資産家の友人Bに相談した。Bは、Aに開業資金として500万円を貸し付け、3年後に返してもらうことで同意した。ただし、Aが弁済できない場合に備えて、担保を要求した。

そこで、(a)Aは自宅の建物に抵当権を設定する契約を結ぶことにした。ところが、Bがそれでは不十分だということで、(b)Aは叔父のCに依頼し、主たる債務者であるAと連帯して債務の履行を保証する契約を締結し、契約書に署名・捺印をしてもらった。

その後、Aは念願の喫茶店を開業した。喫茶店は内装にもこだわり、自作のメニューも好評で、順調に売り上げを伸ばしていった。しかし、借金の弁済をするまでの余裕資金はなかった。

3年が過ぎ、弁済期となったので、BはAに貸金の弁済を求めたが、Aの財産は自宅と喫茶店の運転資金しかなく、弁済ができないでいた。そこでBは、Cに対して、Aに代わって貸金を支払うよう求めた。このためCは、(c)Aの自宅の建物を競売にかければ500万円程度の回収は容易であることから、主たる債務者であるAの財産に対して強制執行すべきだと主張することができる権利があるのかを調べることにした。その結果、そもそもCにはそれを主張する権利はないことがわかり、結局、CはAに代わって借金を弁済することにした。

その後、Aは叔父のCに謝罪したうえで、これからも喫茶店の経営に努力し、毎年少しずつ借金を弁済することを約束した。

問1. 本文の主旨から、下線部(a)によってBにどのような効力が発生するか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 自宅の建物のなかにある家具や家電製品などの財産の所有権を、Aが使用したままBに譲渡することによって、債権の担保とすることができる。
- イ. 自宅の建物の財産価値が、Bを含む複数の債権者の債権の合計額より少ない場合、それぞれの債権額に比例して全員が弁済を受けることができる。
- ウ. 自宅の建物をAが占有したまま債権の担保とし、Aが弁済期に弁済しない場合に、Bがその建物を競売して得た代金から他の債権者に優先して弁済を受けることができる。

問2. 下線部(b)のような人的担保を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 保証債務      イ. 連帯保証債務      ウ. 連帯債務

問3. 下線部(c)のような権利を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 検索の抗弁権      イ. 催告の抗弁権      ウ. 同時履行の抗弁権

## 選択問題Ⅰ〔企業活動に関する法〕

### ① 次の文章を読み、問いに答えなさい。

東京・代官山の街に大型の書店が出店し、周辺住民をはじめ多くの人々に親しまれ利用されている。店舗面積は2,203㎡、営業時間は午前7時から翌日午前2時であり、専門誌の品揃えの豊富さや、商品の提案を行うコンシェルジュの常駐、ブックカフェの併設などが人気となっている。

この書店は、2011年12月に営業を開始したが、その際、(a)書店の設置者は、ある法律の指針を十分に踏まえたうえで、駐車場出入口の安全対策、交通渋滞や騒音など周囲の生活環境に配慮した適切な対策について周辺住民に説明をし、大型の書店と地域社会との融和を図っている。

このように、現代社会において営業自由の原則があるなか、営業の開始に関する制限がなされている。また、営業の方法に関しても原則として自由であるが、不公正な取引を規制する独占禁止法や(b)不正競争防止法、一般消費者の利益を保護するための景品表示法があり制限をしている。

問1. 下線部(a)に記されている法律は何か、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 都市計画法      イ. 中心市街地活性化法      ウ. 大規模小売店舗立地法

問2. 下線部(b)の内容として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 事業者間の取引において、商品の原産地・品質・内容や、サービスの質・内容・用途などについて、取引相手が誤って認識してしまうような行為を規制している。  
イ. 消費者の商品選択の判断を狂わせるような誇大・虚偽広告や、販売促進を目的とした消費者に無料で提供するものなどに関して、行き過ぎた行為を規制している。  
ウ. 事業者が単独または他の事業者と共同して、不当な低価格販売の手段を用いて、競争相手を市場から排除したり、新規参入者を妨害したりしようとする行為を規制している。

### ② 次の文章を読み、問いに答えなさい。

Aは、高齢者向け在宅配食サービスの個人事業主である。年々、顧客からの信頼性が高まっていることを感じていたことから、事業拡大や税金面での優位性のことも考え、(a)Aは、個人企業から株式会社にすることにし、株式会社設立のための事務手続きを一人で行った。定款の認証後、会社の設立時に発行する株式の一部をAが引き受け、残りは従業員と友人に引き受けてもらった。その後、出資の履行、(b)臨時の機関による現物出資の調査を完了させ、遅滞なく創立総会を招集した。そして、手続きの最後となる設立登記をし、Aの個人企業は法人として設立された。

問1. 下線部(a)に関して、Aの立場を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 公証人      イ. 発起人      ウ. 会計監査人

問2. 下線部(b)に記されている機関を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 検査役      イ. 設立時取締役      ウ. 設立時会計参与

問3. 本文の主旨から、Aが行った会社の設立方法を何というか、正しい用語を記入しなさい。

## 選択問題Ⅱ〔社会生活に関する法〕

### ① 次の文章を読み、問いに答えなさい。

X工務店の人事課に所属しているAは、新規に卒業する高校生を採用する計画を立てている。求人票を提出するためにハローワークへ行った。担当者から「X工務店は(a)一週間に40時間の労働時間や災害補償、第二土曜日と日曜日の休日や、年次有給休暇の条件もあるので詳しく明記してほしい」との説明を受けた。Aは労働者災害補償保険(労災保険)や(b)健康保険の加入など、法にしたがった最低条件を記載し求人票を完成させた。

そして、求人票を公開し3名の高校生を募集したところ、多くの応募があった。採用試験の結果、3名の採用を内定させた。入社前に、(c)労働者が使用者の指図にしたがって働くことを約束し、使用者がそれに対して賃金を支払うことを約束する契約を結び、4月から働いてもらうことになった。

問1. 下線部(a)を規定している法律名を何というか、漢字5文字で正しい用語を記入しなさい。

問2. 下線部(b)の内容として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 失業や育児休業を保険の対象とし、保険料は事業主と被保険者の折半負担とする。
- イ. 業務上の疾病や負傷を保険の対象とし、保険料は事業主の全額負担とする。
- ウ. 業務外の疾病や負傷を保険の対象とし、保険料は事業主と被保険者の折半負担とする。

問3. 下線部(c)を何というか、次のなかから正しいものを一つ選びなさい。

- ア. 雇用契約
- イ. 請負契約
- ウ. 委任契約

### ② 次の文章を読み、問いに答えなさい。

ある日、Aが家の掃除をしていると、宅配業者が化粧品を届けに来た。注文した覚えはないのだが、送り主はX化粧品会社となっており、家族が注文したものと思い、サインをして受け取った。

商品送付日から14日が過ぎ、突然、X化粧品会社のBから電話があり、Aが対応した。すると、「先日、お送りした化粧品の代金が、振り込まれていませんので、当社が同封した振込用紙で明日中に振り込んでください」とのことであった。Aは「家族は注文していません。一方的に送りつけてきたものですよね。使用していませんし、化粧品の処分や代金の支払いについて誰かに相談します」と言って電話をきった。すぐに、Aは消費者センターに相談した。

問1. 本文の主旨から、X化粧品会社のBが行った販売方法を何というか、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. ネガティブオプション
- イ. キャッチセールス
- ウ. アポイントメントセールス

問2. 本文の主旨から、下線部の結論として、次のなかから適切なものを一つ選びなさい。

- ア. 化粧品を購入し、代金を支払わなければならない。
- イ. 化粧品を送り返さずに、代金も支払わなくてよい。
- ウ. 化粧品を送り返して代金を支払わないか、送り返さない場合は代金を支払うべきである。



# 経済活動と法解答用紙

<b>1</b>	問 1	問 2	問 3	<b>2</b>	問 1	問 2	<b>3</b>	問 1	問 2	得 点		
					解 釈					□		
<b>4</b>	問 1	問 2		<b>5</b>	問 1	問 2	問 3	問 4		□		
										□		
<b>6</b>	問 1	問 2	問 3	<b>7</b>	問 1	問 2	<b>8</b>	問 1		問 2	□	
											□	
<b>9</b>	問 1	問 2	問 3	問 4		問 1		問 2	問 3	<b>10</b>	□	
											□	
<b>11</b>	問 1	問 2	<b>12</b>	問 1		問 2					□	
				時 効							□	
<b>13</b>	問 1	問 2		問 3	問 4	<b>14</b>	問 1	問 2		□		
										□		
<b>15</b>	問 1		問 2	<b>16</b>	問 1	問 2	問 3	<b>17</b>	問 1	問 2	問 3	□
			条 件									□

注：選択問題 　　いずれか1分野を解答すること。2分野を解答した場合は、選択問題すべてを無効とします。

選択問題Ⅰ〔企業活動に関する法〕

<b>1</b>	問 1	問 2	<b>2</b>	問 1	問 2	問 3			
							□		
選択問題Ⅱ〔社会生活に関する法〕									
<b>1</b>	問 1			問 2	問 3	<b>2</b>	問 1	問 2	
									□

受験場校	受験番号	総得点
		□

# 経済活動と法模範解答

(各2点)

秘

得点

	問1	問2	問3	
1	イ	ウ	不	文 法

	問1		問2
2	文	理 解釈	ア

	問1	問2
3	ウ	ア

14

	問1	問2		
4	ウ	家庭裁判所		

	問1	問2	問3	問4
5	ア	イ	ウ	イ

12

	問1	問2	問3
6	ウ	イ	ア

	問1	問2
7	ア	ウ

	問1		問2
8	質権		イ

14

	問1	問2	問3	問4		
9	ア	ウ	イ	特	別	法 優先 主義

	問1	問2	問3
10	イ	ウ	イ

14

	問1	問2
11	イ	ウ

	問1		問2
12	消滅 時効		ア

8

	問1	問2		問3	問4
13	イ	利息制限法		ウ	ア

	問1	問2
14	ウ	ア

12

	問1		問2
15	停	止	条件 イ

	問1	問2	問3
16	ア	ウ	イ

	問1	問2	問3
17	ウ	イ	ア

16

選択問題 I [企業活動に関する法]

	問1	問2
1	ウ	ア

	問1	問2	問3	
2	イ	ア	募集設立	

10

選択問題 II [社会生活に関する法]

	問1				問2	問3
1	労	働	基	準	法	ウ ア

	問1	問2
2	ア	イ

選択問題 I [企業活動に関する法]・選択問題 II [社会生活に関する法]の2分野を解答した場合は、選択問題を0点としてください。

総得点	100
-----	-----